

※新聞記事のレイアウトを変更しております。

【質問】 受動喫煙防止法が話題になっています。なぜ、この法律が必要なのでしょう。か。(65歳女性)

なぜ受動喫煙防止法

【回答】 たばこの煙には4千種類の化学物質が含まれ、そのうち200種類以上が有害物質です。解剖で亡くなった人の肺を観察すると、非喫煙者と喫煙者の差は明らかで、喫煙者の肺は粉塵(じん)で黒々としています。

たばこに関連した病気は、肺がんが知られていますが、それ以外にも喉頭がんや食道がんなどいろいろながんが増えると報告されています。心血管にも影響を及ぼし、心筋梗塞、脳卒中、突然死、



吸わない人の健康を守る

有害物質 煙に200種類以上

煙を吸い込む受動喫煙により、非喫煙者にも喫煙者同様の健康被害が生じること

により、乳児突然死症候群の危険性が倍増します。受動喫煙により、わが国では少なくとも年間1万5千人が亡くなっていると推計されています。

日本の受動喫煙に対する対策は、諸外国に比べ非常に遅れていました。世界保健機関(WHO)の調査によると、公衆の集まる場所全てに屋内禁煙義務の法律がある国は49カ国あります。WHOは日本の受動喫煙対策を「世界最低レベル」と評しています。

たばこを吸わない人の健康を守る責任は国にあります。受動喫煙防止法は非喫煙者の権利を守る法律であり、たばこを吸う権利を奪う法律ではありません。喫煙のための法律を定めることで、喫煙者も堂々とたばこが吸える環境ができると思っていたら、たばこは健康を損なう大きな要因であることを、決して忘れないでください。(県医師会)

末梢(まっしょう)血管障害などを引き起こします。その他、肺の病気、消化器の病気など、さまざまな病気を引き起こす原因になります。

喫煙による健康被害をなくそうと国を挙げて禁煙運動を進めてきました。加えて近年は、他人のたばこの

受動喫煙は、成人の慢性呼吸疾患に罹患(りかん)する危険率を10〜43%、小児の急性呼吸疾患に罹患する危険率を50〜100%増加させると報告されています。肺がんにかかる危険率も高めます。母親の喫煙

国際オリンピック委員会とWHOは「たばこのない五輪」を掲げており、最近

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。